

被災地方言会話集

— 宮城県岩沼市 —

<自由会話>

自由会話の概要

収録地点 宮城県岩沼市

収録日時 2012 (平成 24) 年 6 月 30 日

収録場所 宮城県岩沼市里の杜 里の杜西住宅 (話者 A・B 宅)

話題 【震災のときのこと】

話者

A	男	1935 (昭和 10) 年	(収録時 77 歳)	[B の夫]
B	女	1937 (昭和 12) 年	(収録時 75 歳)	[A の妻]
C	男	1972 (昭和 45) 年	(収録時 39 歳)	[調査者 1]
D	男	1979 (昭和 54) 年	(収録時 33 歳)	[調査者 2]
E	女	1979 (昭和 54) 年	(収録時 33 歳)	[調査者 3]
F	女	1987 (昭和 62) 年	(収録時 24 歳)	[調査者 4]
G	男	1992 (平成 4) 年	(収録時 20 歳)	[調査者 5]

話者出身地

A 岩沼市寺島 (テラシマ)
B 岩沼市早肢 (ハヤマタ)

【震災のときのこと】

話し手 [1]

A	男	1935 (昭和 10) 年	(収録時 77 歳)	
B	女	1937 (昭和 12) 年	(収録時 75 歳)	
C	男	1972 (昭和 45) 年	(収録時 39 歳)	[調査者 1]
D	男	1979 (昭和 54) 年	(収録時 33 歳)	[調査者 2]
E	女	1979 (昭和 54) 年	(収録時 33 歳)	[調査者 3]
F	女	1987 (昭和 62) 年	(収録時 24 歳)	[調査者 4]
G	男	1992 (平成 4) 年	(収録時 20 歳)	[調査者 5]

001A : ツナミワー アントギワ ホントニ モーチョットデ ナガサレットゴ。
津波は あの時は 本当に もうちょっとで 流されるところ [だった]。

002B : ナガサレットゴ。(D ア一、ドノチデ) アレ ヨーチェン ムカエサ
流されるところ [だった]。(D あ一、××××) あれ 幼稚園の 迎えが

クルカラ。(D ウーン) サンジニ クルンダネ。(C ハイ) サンジ チョード。
来るから。(D うーん) 三時に 来るんだね。(C はい) 三時 ちょうど。

ホーイデ マッデタノ、 モントゴデ。
それで 待っていたの、 門 [の] ところで。

003E : ヨーチェンノ (B ウーン) モンノトコロデ。
幼稚園の (B うーん) 門のところで。

(B バス クンノマッテ) ハイハイハイハイ。
(B バス [が] 来るの [を] 待つて) はいはいはいはい。

004A : ソゴノ トナリノ ヨーチェンダガラサ。
その 隣の 幼稚園だからさ。

005B : ソー X ヨーチェン。
そう X 幼稚園。

006E : ア アリマシタネ。 アノー ウン (B ン ソー)
あ ありましたね。 あのー うん (B うん そー)

007A : イマ ココデ クラスヨーニナッテ ヨーチエン トナリニ ナッタケド、
今 ここで 暮らすようになって 幼稚園が 隣に なったけど、

(D ハイ) (E ハイ チカイトコロニ アリマスヨネ)
(D はい) (E はい 近いところに ありますよね)

ソコデ アズカッタダノネ (E ハイ) (D ハイ) デ アサワ
そこで 預かっていたのね (E はい) (D はい) それで 朝は

ホラ オカーサンノ ウジガラ バスデ ココニ ツレテキタノ。
ほら お母さんの 家から バスで ここに 連れて来たの。

(E ハイ ハイ) (D アー) カエリワ ココデー (E ハイ)
(E はい はい) (D あー) 帰りは ここで (E はい)

ウチノホノ アノ ウミノ ホーニ (D ハイ) (E ハイ)
うちの方の あの 海の 方に (D はい) (E はい)

オグッテモラッテダノ。(C ハイ) カエリワネ。(D ハイ) ダカラ
送ってもらっていたの。(C はい) 帰りはね。(D はい) だから

ウゲドル ホーワ オレデ (E ハイ) アサ ダシテヤル ホーワ
[孫を] 受け取る 方は 俺で (E はい) 朝 出してやる 方は

オカーサン。(E ハイ) デー アド チョーナン
お母さん。(E はい) それで 後 長男

サンジー チョットマエカナ (D ソーデスヨネ ハイ) ネ。
3時 ちよっと前かな (D そうですね はい) ね。

(E ソーデスネー) サンジー チョットマエゴロ。 カエッテ クンノガネ
(E そうですね) 3時 ちよっと前ごろ。 帰って 来るのがね

岩沼市 自由会話

サンジジュップンゴロナンデスヨ、 イツモ。 (D ハイ) (E ア一)
3時10分頃なんですよ、 いつも。 (D はい) (E あ一)

バス一 オクッテクンノガ。 デ オレモ ショーガネーカラネ、
バス [が] 送って来るのが。 それで 俺も しょうがないからね、

トシヨリダカラ。 ホラ ナンニモ ネーガラ。 ア一 ソロソロ
年よりだから。 ほら 何にも [やること] 無いから。 ああ そろそろ

マゴ クンノカナート オモッテ ドーロノ ホ一 ナガメデダノ。
孫 [が] 来るのかなーと 思って 道路の 方 [を] 眺めていたの。

ソーシタラ アノ ジシンデショー。 イヤー ドーショーモ
そうしたら あの 地震でしょう。 いやあ どうしようも

ネガッタンダヨネ。 (D ソーデスヨネ) マワリチョット
なかったんだよね。 (D そうですよね) まわり [が] ちょっと

タンボナモンダッタカラサ。 (E ウン) (F ウン)
田んぼなものだったからさ。 (E うん) (F うん)

008D : ア ソトデモ ヤッパリ (B ソーダヨ) ユレオ カンジマシタカ。
あ 外でも やっぱり (B そうだよ) 揺れを 感じましたか。

009B : ハダケ スズンダンダヨ。 (C ア一 ソーナンデスカ)
畑 [が] 沈んだんだよ。 (C あ一 そうなんですか)

010A : ア メニミエテ。
あ 目に見えて。

011B : ソーダヨ。 ウミノ ソバダカラ。 ウミノ ソバダカラ。 ハダケ
そうだよ。 海の 側だから。 海の 側だから。 畑 [が]

スズンダノネ。 ウン デモネ エチジョーカシテ スナト ミズ クロイノ
沈んだのね。 うん でもね 液状化して 砂と 水 黒いの

岩沼市 自由会話

フチアガッタンダ クイナクバ ハダケガラ。 ネ。(D エー)
吹き上がったんだ _____ 畑から。 ね。(D えー)

ホントチ バスキタンダモン。 ヨーチエンノ バス。 ハー ヤー
その時に バス [が] 来たんだもの。 幼稚園の バス。 はー いや

ヨロコンデ コー アスフミシテサ。 ホリヤキタ ホリヤキタッテサ。
喜んで こう 足踏み [を] してさ。 それ来た それ来たってさ。

クラ デンチ キエタカラ、 クルマノネ、 ラジオカケテ、
×× 電気 [が] 消えたから、 車のね、 ラジオ [を] かけて、

オーツナミ キマス ツッテ。(D ハー ダー) モー ホーデ アー
大津波 [が] 来ます と言って。(D はー ××) もう それで ××

バス コナカッタラ ナガサレタノサ。 フタリデ マッテルウジワナ。
バス [が] 来なかったら 流されたのさ。 二人で 待っている内はな。

バス キタカラ ヨカッタンダッチャ、 ヨーチエンノ バスネ。 アノ
バス [が] 来たから 良かったんだよ、 幼稚園の バスね。 あの

バスサ ノットギ ジシンナッタンダッテ。 ウンウン (D アー)
バスに 乗る時 地震 [に] なったんだって。 うんうん (D あー)

ノッテルトキニ オキタ) コー イワヌマデネ。 ホノママ キダガラ
乗っている時に 起きた) コー 岩沼でね。 そのまま 来たから

イガッタノ。 コネゴッタラ コネー コネーデ マッテデ
良かったの。 来なかったら 来ない 来ないといって 待っていて

ナガサレタノワー。 ウジート イッシヨヌワー。(E アー ソッカー) ンデ
流されたのよ。 家と 一緒によ。(E あー そうかー) それで

マゴ キタガラ ホラ ヨカッタンダラッテ。 コンドネ スグ
孫 [が] 来たから // 良かった////。 今度ね すぐ [に]

キタンサ。(E スグ)

来たのさ。(E すぐ)

012A : アレ ンダカラ イマ カンガエレバ イロイロ ホーホー アッテネ。
あれ [は] だから 今 考えれば 色々 方法 [が] あってね。

(D ア一) ナンモ マジカラ クルンダカラ マジノ ホーマデ

(D あ一) 何も 町から 来るのだから 町の 方まで

ニケ° デレバ イーノネ。(C ウンウンウンウン) (D ウーン)

逃げてれば 良いのね。(C うんうんうんうん) (D うーん)

013B : イジグチデ マッテダガラ ホレ。

[家の] 入り口で 待っていたから ほら。

014D : アー ムコーニ。 ソーデスネ。

ああ 向こうに。 そうですね。

015A : ウン (B ウン) ネ。 カンガエレバネ。 デモ ソントジワ ウジデ

うん (B うん) ね。 考えればね。 でも その時は 家で

クルモントスカ オモッテネーノネ。 ダカラ ウジデ

[孫が] 来るものとしか 思っていないのね。 だから 家で

マッテダワケ。 ンダカラ オレダジ ニケ° ダアト スグ

待っていたわけ。だから 俺達 [が] 逃げた後 すぐ

ツナミ チタカラ、ソンドジワ ミンナー モー ウズニ イダヒトダワ

津波 [が] 来たから、その時は みんな もう 家に いた人達は

ナクナッタンダベネ。

亡くなったんだろうね。

016D : アー ソーデスヨネ。(A ウン) イヤ ナンカ、 デモ ソノー、 マサカ

ああ そうですね。(A うん) いや なんか、 でも その一、 まさか

クルト オモワナカッタカラー。(B ウン) ソノ チョット イヤマー、
来ると 思わなかったから。(B うん) その ちょっと いやまー、

オチタモノ カタズケナキヤッテイウノガ、 ヤッパ (B ショージキ
落ちたもの 片づけなきやっっていうのが、 やっぱ (B 正直

ソーソー) ボクーモー ソー ソー オモッタンデ。

そーそー) 僕も そー そー 思ったので。

017B : ソーデショー。 アー ウチナンテネ サギョーバ ド (D ウーン)
そうでしょう。 あー [私の] 家なんてね 作業場 × (D うーん)

ガッタンガッタン ガッタンガッタンッテ ブツカッタンダヨー。 ホンデモ
がったんがったん がったんがったんって ぶつかったんだよー。 それでも

ホレ ヨグ カワラモ オチナカッタモンネ。 イジマイモ オチナカッタ。
ほれ よく 瓦も 落ちなかったものね。 一枚も 落ちなかった。

018D : スゴカッタデスヨネー。
すごかったですよねえ。

019A : デー ナントガ タスカッタ ツー ツー モンダカラ マー ナンニモ
それで 何とか 助かった という という ものだから まあ 何にも

ナグナッテモ ショーガネーカナー ナンテ。
無くなっても しょうがないかなー なんて。

020B : エ イノジ シロッタндаケデ スグ ネク ナッチャウノイーワー。 [2]
× 命 拾ったのだけで すぐ 亡くなってしまう [より] いいよ。

021A : エ マー ホラ ジブンダゲデネーゴドモ アッテ (D アー) マー
× まあ ほら 自分だけで無いことも あって (D あー) まあ

ハンブン ショーガナイミダイナ キモジニ ナッチャッテサ マー
半分 しょうがないみたいな 気持ちに なっちやってさ まあ

岩沼市 自由会話

オレダケジャ ネーカラ ショーガネーナー。 ナントカ イジデルウジニ、
俺だけじゃ ないから しょうがないな。 何とか 生きている内に、

ダッテ コンナトコデ スンデイランネーガラ、 イジデルウジニ ナントカ
だって こんな所で 住んでいられないから、 生きている内に なんとか

シナキャ ダメダナートカ オモッテンダケドネ。 ウーン ホント アレ
しなきゃ 駄目だなあとか 思っているんだけどね。 うーん 本当 [に] あれ

ツナミツツーノ ケイケンスナキャ ワカンネーダ。 アットユーマダネ。
津波っていうの [は] 経験しなければ 分からないんだ。 あっという間だね。

(E アー) (F ウーン) ウン。 (C ソレワ)

(E ああ) (F ううん) うん。 (C それは)

022B : ビックリスルヨ、 ホントト。

びっくりするよ、 本当 [に] 。

023D : ドノ (F ウーン) モー ソレコソー ココヨリ タカイ グライニ
どの (F うーん) もう それこそ ここより 高い 位に

キテルンデスカ。

来ているんですか。

024A : イヤー アノネー オレダズワ ズブンノコト ミエネガッタノ。

いやー あのねー 俺達は 自分のこと [が] 見えなかったの。

(B ヌケ° タッチャバ) [3] マゴト イッショニ (D アー ソーカ)

(B 逃げたんだよ) 孫と 一緒に (D ああ そうか)

(E ウーン) (F ウーン) (B オモッキシ ハイッテキタ) デ

(E うーん) (F うーん) (B 思いつ切り 入ってきた) それで

アト ニケ° デキダ (B チタシトラ) シトダジ、 オレンドゴノ ウズノ
後 [から] 逃げて来た (B 来た人達) 人達 [は] 、俺の所の 家の

ヤネナンカ ミエネガッタッテヨ。
屋根なんか 見えなかったってよ。

025B : モー Aサン イネーワッテ (D イヤー) ユワレタンダヨ。
もう Aさん いないわって (D いやー) 言われたんだよ。

シナンシテタツケワ。 ショーガッコーサ ニューイン シ アノ
避難していたからよ。 小学校に 入院 × あの

シナンシテタツケワ。 (A ウーン) Aサンジ ネワッテ (E ハー)
避難していたからよ。 (A うーん) Aさんの家 ないよって (E は一)

(A ウン ツナミカブッテ ナミガキテ) モー ナミキテ ネーヨ、
(A うん 津波かぶって 波が来て) もう 津波来て ないよ、

ネーヨ、 アンタ アドガラ キダヒドダジラネー、 ミテテ (C アー)
ないよ、 あなた 後から 来た人達 [が] ね、 見ている (C ああ)

ホラホラ マゴト ハヤグ ニケ[°] タカラワ オイ (E ハイ ハイ)
ほらほら 孫と 早く 逃げたからよ おい (E はい はい)

アイヤー ホンデ ウジ ネーワナー (C ハニー) ナンテ。
あいやー それで 家 ないわなあ (C はー) なんて。

ホッテイッタツケ ヤネグラ アッタノ。 [4] ネ。 {笑} (C ウーン)
それで行ったら 屋根くらい あったの。 ね。 {笑} (C ううん)

(D ウーン) {笑} ナカミ ナンニモナイノワ。

(D うーん) {笑} 中身 [が] 何にもないのよ。

(E ハニー) (F ウーン) ガラント ナッテ アトアッテ。

(E はー) (F うーん) がらんと なって 跡 [だけ] あって。

(F コワイ) (E アニー) ウーン。

(F 怖い) (E あー) ううん。

026A : イヤー アレ スゴイモンダネ。 (D ウン) (E アーー)
いやあ あれ [は] すごいものだね。 (D ううん) (E あーー)

ウン。

うん。

027C : ナンカ ツナミノ ケーケンワ ハジメテダッタ。
なんか 津波の 経験は 初めてだった？

028B : ハジメテ。 ウン。 (D ウオーオーオー) (E アーー)
初めて。 うん。 (D うおーおーおー) (E あーー)

(D ソーデスヨネ)

(D そうですよね)

029A : ウン。 ダレモ ホラ シラナカッタカラ (D ウン) (F ウン)
うん。 誰も ほら 知らなかったから (D うん) (F うーん)

(E アーーー) ダメナンデシヨ。 (C ソーデスヨネ)

(E あーーー) 駄目なんですよ。 (C そうですよね)

030B : ナヌー ハアグニケ° ットキ、 イヤ ス アノ オカネアッタド オモッテ
××× 早く逃げる時、 いや × あの お金あったと 思って

ニケ° ナイデシヨ。 ナンダ (E ウンウン) ゴジゴロ カエッテ
逃げないでしょ。 なんだ (E うんうん) 5時頃 帰って

クンダカ ジンダー [5] ナンテ オレラ オモッタッチャ。
来るんだから 良いんだ なんて 私達 [は] 思ったんだ。

031A : ソノマエニ (C ウン ウーン) (E アーー) カラ カラブリシタノサ。
その前に (C うん ううん) (E あーー) ×× 空振りしたのさ。

キョネン。

去年。

032 B : イチネンマエ。
一年前。

033 D : アッ (C アー) ソーデスネ。 (B ソ ソ ソー) (A ウン)
あっ (C あー) そうですね。 (B そ そ そう) (A うん)

ソー アノ。 (A アントキモネー) (E アー)
そう あの。 (A あの時もね) (E ああ)

034 B : ツナミ キマスー (C アーー) キマスー。
津波 [が] 来ます (C あーー) 来ますー。

(D ウン ソーソーソーソー)
(D うん そうそうそうそう)

035 A : ツナミ クッカラ ニケ° ナセツツーコトデ イッカイ ニケ° ダノ。
津波 [が] 来るから 逃げなさいということで 一回 逃げたの。

(C ウーン) (F ウーン) シタラ ゼンゼン ナンデモナクテー。
(C うーん) (F ううん) そうしたら 全然 何でもなくて。

(E アー)
(E ああ)

036 B : ダカラ ミンナ (D ウン) ホラ ユダンシタンダ。
だから 皆 (D うん) ほら 油断したんだ。

037 A : ザンショーワ。 (C アー) (D ソーデスネ) ダカラ コンドモ
_____。 (C あー) (D そうですね) だから 今度も

ナーンノ ホンナ オレモ (F ウーン) ホーダケド (C ウンウンウン)
何の そんな 俺も (F うーん) そうだけど (C うんうんうん)

(D ウン) イジジカンモスレバ カエッテクンダガラ。 ナンデモネーカラ。
(D うん) 一時間もすれば 帰って来るんだから。 何でも無いから。

(E ウン) カラダダゲ (E ア一) ニケ° ロダナンテ。
(E うん) 体だけ (E あ一) 逃げろだなんて。

038B : タダミノマデ シタダンダツツーガラネー (C ウン) [6] ナンニモ
畳の [所] まで [水が] 浸るんだって言うからね (C うん) 何にも

モタネデ ニケ° タノッサワ。 (C ウン) (D ウン) (E ウン)
持たないで 逃げたんだよ。 (C うん) (D うん) (E うん)

ホーレガネ、 ナンヌモネー。 ミンナソーユーンダヨ。(A ナンニモ)
それがね、 何にも無い。 皆そう言うんだよ。(A 何にも)

ネーグナッテンダーワ) (C ウン) (D ウン) ヤーヤ タンスノウィサ
無くなっているんだよ) (C うん) (D うん) いやあ タンスの上に

オガネ アケ° タラ モッテコネー。 ウン。(E ウア一) ダイジナモノ
お金 [を] あげたら 持ってこない。 うん。(E うわ一) 大事なもの

(C ウン) モッテコネ。 ミンナ ホーユーノワ スグーネ
(C うん) 持ってこない。 皆 そういふのは すぐね

039E : スグ カエレルト オモウ トリアエズ
すぐ [に] 帰れると 思う とりあえず

(C ウンウンウンウンウンウンウン)
(C うんうんうんうんうんうんうん)

040B : ンナ キノ ウン ナンジ ゴジゴロ カエッペド (E ア一)
×× ×× うん 何時 5時頃に 帰ろうと (E あ一)

オモッテダノッサー。(C ウンウンウン)
思っていたのさ。(C うんうんうん)

041A : デモ (E ハ一) アレダナ ビックリシタモンネー。(E ハ一) アノー
でも (E は一) あれだな びっくりしたものねー。(E はあ) あの

岩沼市 自由会話

オレタジワ タマウラノ ショーガッコー イッテ ヤッテタンダケド
俺達は 玉浦の 小学校 [へ] 行って やっていたんだけど

(D ハイ) (E ハイ) ソゴニ ニケ° ダノ。 (D ア一 フタリトモ)
(D はい) (E はい) そこに 逃げたの。 (D あ一 二人とも)

シタラ ヌケ° テ マモナク (B キタンダヨ) チタモンネ。 ガッコーマデ。
そしたら 逃げて 間もなく (B 来たんだよ) 来たものね。 学校まで。

(C ア一) (F ウ一ン) (D ア一 キマシタカ ハ一) ソーナノヨ。
(C あ一) (F う一ん) (D あ一 来ましたか は一) そうなのよ。

(B ウン) トコロガ コーテーダカラ クルマー (D アッ) イッパイ
(B うん) ところが 校庭だから 車 [を] (D あっ) いっぱい

オクデシヨ。 (E ハイ ハイ) (D ハイ) ソレガ ミナ ウカンデサー。
おくでしよう。 (E はい はい) (D はい) それが 皆 浮かんでさー。

042 B : シヤクダイイジョー (D ハ一) アッタベネ。
100 台以上 (D は一) あっただろうね。

043 A : ヒヤクダイ (D エ一) ニヒヤクダイ アッタヨ。 (C ハ一)
100台 (D え一) 200台 あったよ。 (C は一)

(B ウン) ホイデ (E ヒヤクダイ ニヒヤクダイ) イッパイダッタヨ。
(B うん) それで (E 100台 200台) いっぱいだったよ。

044 B : ウジアガッタンダベナ ミナワー。 (F エ一) (D ハ一) (E ハ一)
浮き上がったんだよな 皆よ。 (F え一) (D は一) (E は一)

ケカ ガッコノ (A ウン) コノヘンマデ キタンダナ。
×× 学校の (A うん) この辺まで 来たんだな。

045 A : ソー オレモネー (D エ一) イマンナッテ (F ドノクライ チカク)
そう 俺もね (D え一) 今になって (F どの位 近く)

岩沼市 自由会話

レーサーニ カンガエレバ (D ウン) アノ ハマドーリ ドッチャ
冷静に 考えれば (D うん) あの 浜通り どちらへ

ニケ° テモ オンナジナノサネヤ。
逃げても 同じなんだよね。

046B : シダヨ。 コレデ (D ハー ソーデスネ) (E アー) イワヌマ
そうだよ。 これで (D はー そうですね) (E あー) 岩沼

ツツ ヌケ° レバ ヨカッタノヨナー。 (A ウン) (E アー) (D アー)
×× 逃げれば 良かったのよな。 (A うん) (E あー) (D あー)

047A : オガノホーニ ヌケ° シノガ チホンデショーヤ。 (E アー)
丘の方に 逃げるのが 基本でしょうよ。 (E あー)

(C ウーン) (D ウンウンウンウンウンウン ハイ) ネ。
(C うーん) (D うんうんうんうんうんうん はい) ね。

(E ハマドーリ マチガ) アーユーノ マジガッテタンダネー (E アー)
(E 浜通り ×××) ああいうの 間違っていたんだね (E あー)

ヤッパリ。
やっぱり。

048B : ダッテ シナンジョガ ホレ ショーガッコート チューガッコーノ チマッテ
だって 避難所が ほら 小学校と 中学校の 決まって

(A イツモー) チマッテ、 チマッテッテ (E アー) オカシーケド ウン。
(A いつも) 決まって、 決まっています (E あー) おかしいけど うん。

049A : アノー (D ウン) クンリンデ マナンデル シトタチ、
あの (D うん) 訓練で 学んでいる 人達 [は]、

タマウラショーガッコーッテ キマッテルモンダカラ (C ウンウン)
玉浦小学校って 決まっているものだから (C うんうん)

(D アーアー) ソレシカ アダマニ ナイモンネ。(E ウン)

(D あーあー) それしか 頭に 無いものね。(E うーん)

(C ウン) (E ウン) (C ウン) ダー ソコニ ニケ° タノ。

(C うーん) (E うーん) (C うーん) だから そこに 逃げたの。

050B : ミンナ ニケ° タカラ。

皆 逃げたから。

051A : デモ一 コンドリ シミンカイカンニ チョクセツ ニケ° タシトモアッタダヨ。

でも 今度は 市民会館に 直接 逃げた人もいたんだよ。

052D : アッ (C ホー) (E アッ) ココマデー (E アソコノ) アノー

あっ (C ほー) (E あっ) ここまで (E あそこの) あの一

(E シミンカイカン) (F フーン) (C ハー)

(E 市民会館) (F ふーん) (C はー)

053A : ココマデ ニケ° タシトワ クルマモ ナンニモ ナントモナガッタネ。

ここまで 逃げた人は 車も 何にも 何とも無かったね。

(D アー) (E アー)

(D あー) (E あー)

054D : ココーワ (C ダイジョーブ) コナカッタデスヨネ。(E ダイジョーブ)

ここは (C 大丈夫) 来なかったんですよ。(E 大丈夫)

055A : コナカッタ。(B ウン コナカッタ) (D ウン)

来なかった。(B うん 来なかった) (D うーん)

アノ コーソクドーロノ トコロマデ。

あの 高速道路の 所まで。

056D : ソ一デスヨネ。(E ウン) (F ウン) ア一。

そうですね。(E うーん) (F うーん) あ一。

057A : ウン。(F へー) デモ ナ ナンデ ノガ° レテ エガッタノガ、
うん。(F へー) でも × なんて 逃れて 良かったのか、

スンダホーガ イガッタノカーナンテ。
死んだ方が 良かったのかなあなんて。

058B : へー ダカ ウミノウエサウイデタ (D イヤイヤイヤイヤ) (E アー)
へえ だから 海の上に浮いていた (D いやいやいやいや) (E あー)

{笑} ミロ、ケートトラックモ (C イヤ) ナクナッタベシャネー。(C ウン)
{笑} 見ろ、軽トラックも (C いや) 無くなったんだよねえ。(C うん)

アノ ノツテキタ (E ウーン) クルマモ ウジアガッタッサワネー。
あの 乗ってきた (E うーん) 車も 浮き上がったんだよねえ。

(C ウン) ウン。(D ウーン) マズー ウチデ ニダイグレ、
(C うん) うん。(D うーん) まず うちで 2台位、

サンダイ ナガ サンダイ クンダガラ トマッペネ。
3台 ×× 3台 来るんだから [100台以上も] 止まるだろうね。

ウン (D ウーン) オトツツアント カーチャン ニケ° デシマウシネ。
うん (D うーん) お父さんと お母さん [車で] 逃げてしまうしね。

(D ウン) (E ウーン)
(D うん) (E うーん)

059A : アトネー アノー ヤッパリー アエヨ ナンカ ケーケン ネット
あとね あの やっぱり あれよ なんか 経験 無いと

ダメナンダネ。(D ウーン) イークルマ イダマスイカラ アブラオ
駄目なんだね。(D うーん) 良い車 大切だから 油を

クーカラ。(D ウーン)
食うから。(D うーん)

060B : チャッコイノヨリ オッキーノ。
小さいのより 大きいの。

061A : チッチェンダ。(E アッ) ケートラックトカデ ニケ タヒトノ
小さいんだ。(E あっ) 軽トラックとかで 逃げた人の

(D ソーデスネ) ホーガ オーイノサ。

(D そうですね) 方が 多いのさ。

062B : オッキナクルマ オイデー (E アー) (C ウーン) ホシテ
大きな車 [を] 置いて (E あー) (C うーん) そして

チャッコイサ (E ソッカ) ミンナシテ ノッチャウ。 ノッテルヨ。
小さい [の] に (E そっか) 皆で 乗っちゃう。 乗っているよ。

(A ウン) ウン。 ウーン。

(A うん) うん。 ううん。

063A : トコロガ ホノ オッケナ イダマスイ クルマガ ナガサレチャッテ。
ところが その 大きな 大切な 車が 流されちゃって。

(E ハー) (C ナルホド) (D ソーデスヨネ) (E アー)

(E はー) (C なるほど) (D そうですね) (E あー)

(B ホッタラ _____) ケートラックガ ノコッタリツツ。

(B そしたら _____) 軽トラックが 残ったりしているという。

(E ソッカー) (B チッチャイ クルマサー) (C アー)

(E そっか) (B 小さい 車に) (C ああ)

(D へー) モーシトツワ (B ミンナシテ ノッテキテ) (E アー)

(D へー) もう一つは (B 皆で 乗ってきて) (E あー)

シテスワルンダネー。(C アー) (B コレノッテイル) (E ウン)
_____んだね。(C あー) (B これ乗っている) (E うん)

岩沼市 自由会話

ヤッパリ ンダカラ ダレカカ° ネ ナンニンカガ マエニ ケーケンデモ
やっぱり だから 誰かがね 何人かが 前に 経験でも

シテイル シトガ イレバ (E ア一) (C ウンウン) モーチョットワ
している 人が いれば (E あ一) (C うんうん) もうちよっとは

ヨカッタンデネーノカナ一。(C ウンウン) (D ア一) (F ウン)
良かったんじゃないのかな。(C うんうん) (D あ一) (F うん)

064B : ダレモ ケーケン ナイモンネ一。(D ウン) (E ウーン)
誰も 経験 無いものね。(D うん) (E うーん)

マエナヤイナノワ。 [7]
前にないのは。

065E : カタリツグッテ ユーカ カ コージョーホーオ (D ウン) (C ウン)
語り継ぐって 言うか × こう情報を (D うん) (C うーん)

コー (B ネ一) (A ホーダネ) デンタツッテ ユーノガ ナカナカデキナイ。
こう (B ねえ) (A そうだね) 伝達って いうのが 中々できない。

066A : デモー ヤッパリー ナミガ スゴカッタラシー。(D ウン)
でも やっぱり 波が すごかったらしい。(D うーん)

(E ウン) ネ。(F ウン)
(E うーん) ね。(F うーん)

067B : ンダヨー。 アノー テーボー ミンナ コワサレテネ (D ウン)
そうだよ。 あの 堤防 みんな 壊されてね (D うーん)

(C ウン) イッテミダラ ホンド ビックリスルツツーンダカ ナンダカ
(C うん) 行ってみたら 本当 びっくりするっていうんだか なんだか

(E ハ一) ナミダ トマンナグ ナッタガラネ。(E ハ一)
(E は一) 涙 [が] 止まらなく なったからね。(E は一)

岩沼市 自由会話

(F ウーン) ザイサン ミンナ モッテカレタンダモンネー。

(F うーん) 財産 [を] 皆 持って行かれたんだもんね。

(E ウーーン)

(E うーん)

068E : スゴイ スピードモ スゴイシー (D ウーン) (B ソーダネー)

すごい スピードも すごいし (D うーん) (B そうだね)

イキオイモ スゴイシー アレデス。

勢いも すごいし あれです。

069D : アレー ヒクノワ キタノガ ナン ミズガ ヒクノワ ケッコー ジカンガ

あれ 引くのは 来たのが ×× 水が 引くのは 結構 時間が

カカタンデスカ。 ソノ。

かかったんですか。 その。

070A : イヤ アノー テーボーガラ ウイノ アカ° ッタヤツワ (C ウン)

いや あの 堤防から 上の 上がったやつは (C うん)

(D ハイ) マー ツギノヒアダリ シーダッテヨ。 (C アー)

(D はい) まあ 次の日当たり 引いたってよ。 (C あー)

(D アー) フツカグライデ。 デモ ソノ ノゴッタミズ、 コンド

(D ああ) 2日ぐらいで でも その 残った水、 今度

ホラー ドコモ ヌケ° ヨーナイカラ (D ソーデスヨネ)

ほら どこも 逃げよう [が] ないから (D そうですよね)

(C ウーン) ソレワ シバラク イッシューガンガ トーカグレーワ

(C うーん) それは しばらく 一週間か 10日位は

アッタナ。

あったな。

071B : ンダネ。 (C ウン) (D ウン) ウジサ イガンネクナツタンダ。
そうだね。 (C うん) (D うん) 家に 行けなくなったんだ。

ミズガボデ。 (D ア)
水たまりで。 (D あ)

072A : ソシテマー タンボンナカ ミズーミミダイニナツテワ。 (B ンダヨ)
そしてまあ 田んぼの中 [が] 湖みたいになってよ。 (B そうだよ)

(C ン) (D ウン) ヌケ° ナガッタネ。 シグイドゴ。
(C ん) (D うん) 抜けなかったね。 低い所。

シグイドゴツツーカ (C ウン) テーボー (D ハイ) ノ ウジガワ
低い所っていうか (C うん) 堤防 (D はい) の 内側

(D ハ) (C ウン) トカ ソーユートコガ モー ヌケツトコ
(D は) (C うん) とか そういう所が もう 抜ける所 [が]

ナイガラ。 (C ウン) ウン。 コワレダ ドゴモ サイショワ
ないから。 (C うん) うん。 壊れた 所も 最初は

コワレンダケドモ シタマデワ コワレナインダヨネ、 アレ。 (F ウン)
壊れるんだけども 下までは 壊れないんだよね、 あれ。 (F うん)

ガーット コワレンナンダ。 ソレデ タマッタ ミズガ ソゴサ ノゴツテ
がーっと 壊れないんだ。 それで 溜まった 水が そこに 残って

(D ア) ソー ウゴガナク ナンノガアッタネ。
(D あ) そう 動かなく なるのがあったね。

073B : アト ジエータヤサン キテ キャ チカイ モツテチテネ ミナ
あと 自衛隊屋さん 来て × 機械 [を] 持って来てね 皆

テーザンボリサ [8] ナガシタツチャ コーユー ナンカ タンク。 ネ。
貞山堀に 流したんだよ こういう なんか タンク。 ね。

ホース ミツグライデ モツテチテ ミナ クミアケ° ダノ。(A ウーン)
ホース 3つ位で 持って来て 皆 汲み上げたの。(A うーん)

(D ウーン) チーチャイサー。

(D うーん) 小さいさあ。

074A : ポンプモ ミナ ダメニナッタデショー。(D ウーン) チクワンバ。 [9]
ポンプも 皆 駄目になったでしょう。(D うーん) 機関場。

(D タシ)

(D ××)

075B : チカンバ。

機関場。

076A : ダカラー アノー チッチャイ コーユー スイチューポンプミデノ
だから あの 小さい こういう 水中ポンプみたいの

スイ、 デモ デッカインダナー アレ サンジュッセンチグライ
×××、 でも 大きいんだなあ あれ 30センチ位

アッタカラ (B ネー ウーン) ホーサネー。(D アー)

あったから (B ねー うーん) ホースはねー。(D あー)

(E アー サンジュセンチ) ソナノ

(E あー 30センチ) そんなの

077B : サンボングライ ハイッテネ。

3本位 入ってね。

078A : シチハチダイグライ ズーット スズケテ ヌイダンダゲドモネ。

7、8台位 ずーっと 続けて 抜いたんだけどもね。

(E アー) デモ シバラク カカッタネ。

(E あー) でも しばらく かかったね。

079B : カカッタネー。(E アー) (D ウン) ウン。
かかったねえ。(E あー) (D うん) うん。

080A : ウン。(F ウン) (D ウン) デモ一 ホイツア ナクナッタンダカラ
うん。(F うん) (D うん) でも そいつは 無くなったんだから
ドーショーモナイケド。(D ウンウン)
どうしようもないけど。(D うんうん)

081B : デモ ガレッジ ミンナサ ミシエダガッタヨ。(E ウン) ウッチノ
でも ガレージ [を] 皆に 見せたかったよ。(E うん) 家の

ウイサ クルマ アカ° ッテルー、 ウジノ ナカノ トラクターダノ
上に 車 [が] 上がっている、 家の 中の トラクターだの

コンバイン ミンナ アカ° ッテ ハイッテンダヨ、 ナカサ。 ネ。
コンバイン 皆 上がって 入っているんだよ、 中に。 ね。

082E : ア イエノナカニ。(C ン) (D へ)
× 家の中に。(C ん) (D へ)

083B : ウジンナカサ。(E ハ) コンバイントカ (F ア) トラクターネア。
家の中に。(E は) コンバインとか (F あ) トラクターね。

ミンナ ハイッテンノ。 ナガサレデキテ。(D エ) ウン。
皆 入っているの。 流されてきて。(D ええ) うん。

(C ン)

(C ん)

084A : アレー アドガラ (B イヤソンナ) キーダンダケッド (D ハイ) コー
あれ 後から (B いやそんな) 聞いたんだけど (D はい) こう

ヤッパリ イッカイ クルンダケド、 ヒジナミツツーノ アッテ
やっぱり 一回 来るんだけど、 引き波っていうの [が] あって

岩沼市 自由会話

(D アー ソーデスネー) イッカイワ ヒグラシーノネ。(D ハイ)

(D あー そうですねえ) 一回は 引くらしいのね。(D はい)

(C ウーン) ダァ ソントギワ ホンノ テーボーノ タカサマデダガラ。

(C うーん) だから その時は ほんの 堤防の 高さまでだから。

(D アー) ヒーダアドニ。 ソノ ノゴッタノワ コンド ヌゲミジガ

(D あー) 引いた後に。 その 残ったのは 今度 抜け道が

ナイガラ ノゴッタッテユー ハナシ。

無いから 残ったっていう 話。

宮城県岩沼市方言会話集（自由会話）注記

〔1〕話し手について

本調査は、調査会場の都合上、話者と正対して調査を行わざるを得ない状況であった。そのような状況で、調査者C～Gがいるため、話者A、Bともに、自然、調査者に向けての発話が多くなり、方言話者同士の会話というのとは異なるものになっていることに留意されたい。ただし、話者A、Bともに、調査者への発話においても、岩沼市の方言的特徴をよく反映している。

〔2〕ネクナッチャウノイーワー

話者Bの談によれば、「亡くなってしまうよりいいよ」という内容を言おうとして、言い損ねたもの。

〔3〕ヌケ° タッチャバ

「ヌケ° タッチャ（逃げたんだ）」、「ワ（よ）」の「ワ」が「バ」([Ba]両唇摩擦有声音)のように発音されたものと考えられる。

〔4〕ヤネグラ アッタノ

話者A、Bの談によれば、話者A、Bは、避難先の小学校にたどり着いた後、後から避難してきた人たちに「自宅が流された」と聞いたと言う。その後、波が引いた後に自宅の場所に行ってみると、自宅の1階部分が丸々なくなり、波に耐えた支柱と、その上の、波を被らなかつた屋根だけが残っていたという、その様子を言っている。

〔5〕ジンダー

「良いんだ」のこと。「良い」は、「イー」ないし「エー」と発音される。さらに、県南では、ヤ行の音が摩擦化しジャ行になる。したがって、「良い」の「イー」は「ジー」、「良い」の「エー」は「ジェー」と発音される可能性がある。この会話では、「イー」が、摩擦化し「ジー」になり、それが短く発音されている。

〔6〕タダミノマデ シタダンダツツーガラネー

話者Bの談によれば、畳の所まで浸る、すなわち床上まで浸水すると聞いたので、高いところに貴重品を上げる措置だけで、身一つで逃げたが、実際には想定を超えた波が来て、家具ごと流されたということを説明している。

〔7〕 マエナヤイナノワ

話者Bの談によれば、「前にないのは」という内容を言おうとして、言い損ねたもの。

〔8〕 テーザンボリ

宮城県中部、松島湾の支湾塩竈（シオガマ）湾から名取（ナトリ）川河口を経て阿武隈（アブクマ）川河口に至る運河。貞山運河ともいう。

〔9〕 チクウンバ

「機関場」、排水用のポンプ場のこと。話者の住む地域は、もともと土地が低く、生活上、排水施設が重要なものだった。加えて、震災により、県南沿岸部の広い範囲で、土地の沈下が起こり、津波による浸水後の排水作業が課題となった。

宮城県岩沼市方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 中西 太郎（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
椎名 渉子（東北大学大学院文学研究科博士後期課程 3 年）
蕭 舒文（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1 年）
刈間 勇斗（東北大学文学部 3 年）
梁 敏鎬（人文科学総合研究所 研究教授）

文字化担当者 中西 太郎（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
刈間 勇斗（東北大学文学部 3 年）